

〈創作〉

I 人形劇台本 (1)

『トマトさん、待ってえ！』

〈原作〉

『子どもの権利条約童話――
月と太陽と子どもたち』（原子修
著）より

〈脚色〉

原子 修

《第一場》

(軽快なトマトの音楽)

(舞台の一方の空中に鈴なりのトマトばたけ)

りりちゃん

(空中のトマトの間をぬいびながら カゴにトマトを一つ摘み)

亡くなったおかあさん いつも言っていたわ……

おかあさんの声

りりちゃん あなたはねえ 海のむこうの ずっとずっと遠いくにで生まれたのよ (エコーで)

りりちゃん

(カゴにあたらしいトマトを一つ摘み)

それは どこくに?

おかあさんの声

あなたのおとうさんのくによ (エコーで)

りりちゃん

(また あたらしいトマトを一つ摘み)

じゃあ わたしは おとうさんのくにのひと?

おかあさん

そのはずなんだけれど……おとうさんが わたし達をおいて どこかに行ってしまったので あなたは ど

このくにのひとでもないのよ (エコーで)

りりちゃん

ああ わたしのおとうさん どこに行っちゃったの?

(大きなトマトを摘み 両手でかざし)

このトマトさんにおとうさんの姿がうつっていないかなあ

(ポトリという大きな音)

(大きなトマト りりちゃんの手からころげおちる)

(コロコロところがる音)

りりちゃん

あつ 大きなトマトが一つ 急な坂道を コロコロ ころがっていくわ

(手をのばして 大きなトマトを追いかけている)

トマトを一つでもなくしたら トマトばたけのご主人に 棒で叩かれるわ

トマトさん 待ってえ!

(やっと追いつきそうになり)

あと もうすこし!

(ポチャンという大きな音)

(大きなトマト 海に落ちる)

(ポロンという音楽 高く鳴る)

(暗転)

(トマト 大きな夕陽にかわって 燃える)

りりちゃん

あつ 大きなトマトが まっかな夕陽に変わっちゃったわ

でも この夕陽に おとうさんの姿がうつっているかもしれないわ

(ポロンという音楽 高く鳴る)

りりちゃん

(まっかな帆にまっかな風をはらむまっかなヨットになって 夕陽を追っかけながら)

トマトさん 待ってえ! (エコーで)

(ひゅうひゅうひゅうという音楽)

りりちゃん

— おとうさん 待ってえ!

(すいすいすいという音楽)

りりちゃん

— わたしのおくに 待ってえ!

ナレーターの声

りりちゃん

ナレーター

(眠りの音楽)

夜になり 朝になって まっかな帆にまっかな風のまっかなヨットのりりちゃんは やっと ちいさな港に
たどりつきました
あーあ つかれたあ
やっと 岸にはいあがつたりりちゃんは まっかな屋根と まっかな窓の まっかなヨットハウスになって
ぐっすりと眠りました

《第二場》

(ポロンという音楽 高く鳴る)

(スポット)

(まっかな屋根と まっかな窓の まっかなヨットハウスになったりりちゃん 横になって ぐっすり眠る)

(やさしく 甘い 夢の音楽)

(暗転)

りりちゃん

ナレーターの声

りりちゃん

おとうさん！

りりちゃんは 夢をみたのです

(スポットの中を おとうさんが うしろむきに 遠去かっていく)

(スポットの中を 女の子の姿のまま おとうさんを追いかけ)

おとうさん おねがいですから わたしの方をふりむいてください
わたしを りりちゃんと よんでください

わたしを だっこしてください

そして わたしが あなたのくにのひとだと はっきり言ってください
おねがいです おとうさん

(スポットの中を おとうさん 両手で耳をふさぎ ずんずん 去っていく)

りりちゃん

(スポットの中を おとうさんの方に 両手をのべ)
おとうさーん！ (エコーで)

(おとうさんの姿 スポットと共に消える)

りりちゃん

(スポットの中で しゃがみこみ 肩をふるわせて 泣く)
おとうさーん おとうさーん おとうさーん

(暗転)

(沈黙)

(トントントンというノックの音 高くひびく)

ナレーターの声

だれかのノックの音で りりちゃんは かなしい夢からさめました なみだでぐしょぬれの目をあけたりり
ちゃんは たちまち元気をとりもどし 今度は まっかな蒸気機関車になって 走りだしたのです

《第三場》

(ボロンという音楽 高く鳴る)

(明転)

(しゅーっという蒸気の声)

(吹きだす まっしろい蒸気)

(まっかな蒸気機関車になったりりちゃん しゅーつと まっしろい煙を吹きあげる)

りりちゃん — トマトさん 待ってえ!

(ポーッという汽笛の音)

りりちゃん — おとうさん 待ってえ!

(ガタンという 発車音)

りりちゃん — わたしのおくに 待ってえ!

(シュツシュツ ポップと走る 列車の音楽)

(まっかな客車をひっぱった まっかな機関車のりりちゃんが まっかな客車をひっぱり 音楽にのってはしる)

カモメさん (ミユウとないて 舞いおり)

やっ 港の まっかにさびた線路を りりちゃんの列車が はしっていくぞ

(客車にのりこむ)

ネコさん (ニヤーンとないて かけより)

やっ まっかな蒸気機関車のりりちゃんが まっかな客車をひっぱっていくぞ

(客車にのりこむ)

カエルさん (ケロケロとなき はねてきて)

やっ まっかな列車のりりちゃんが まっかなトマトをさがしに はしっていくぞ

(客車にのりこむ)

りりちゃん トマトさん 待ってえ!

カモメさん りりちゃんのトマトさん 待ってえ! ミューミュー(エコーで)

りりちゃん

おとうさん 待ってえ！

ネコさん

りりちゃんのおとうさん 待ってえ！ ニャオーニャオー（エコーで）

りりちゃん

わたしのおくに 待ってえ！

カエルさん

りりちゃんのおくに 待ってえ！ ケロケロケロ（エコーで）

（シュツシュツ ポツポ はしる列車の音）

（とつぜん けたたましい汽笛）

（ギーツという 急ブレーキの音）

カモメさん

たいへん！ たいへん！ ミューミューミュー

ネコさん

まっかな線路が ゆきどまりですよお ニャーニャーニャー

カエルさん

まっかな列車が ひっくりかえるよお ケロケロケロ

（なおも 急ブレーキの音）

（暗転）

（ガタガタガタと脱線する大きな音）

（沈黙）

《第四場》

（ポロンという音楽 高く鳴る）

（ひひーんといなく馬の声）

（ガタガタはしりだす馬車の音）

(暗転)

りりちゃん

大工さん

りりちゃん

赤ちゃん

りりちゃん

子犬

(まっかな馬つきの まっかな乗合馬車になつてはしりだし)

トマトさん 待ってえ!

(馬車の中から 金槌をふりあげ)

りりちゃんのおとうさん 待ってえ(エコーで)

おとうさん 待ってえ!

(エコーで)

(馬車の中から ガラガラをふり)

りりちゃんのおとうさん 待ってえ!

わたしのおくに 待ってえ!

(エコーで)

(馬車の中から ワンワンとほえて)

りりちゃんのおくに 待ってえ!

(カラカラはしる馬車の音)

(とつぜん ガタガタガタとはげしくゆれる音)

赤ちゃん

たいへんでしゅよお ガラガラガラ

大工さん

馬車の車輪が はずれたよお トントントン

子犬

乗合馬車がひっくり返るよお ワンワンワン

(暗転)

(ひひーんと高いなくなき馬)

(ガラガラドッシンと ひっくりかえる馬車の音)

(沈黙)

《第五場》

(ポロンという音楽 高くひびく)

(ブッブーというクラクションの音)

(ウウウーンとはしりだすバスの音)

(明転)

りりちゃん

(まっかな車輪の まっかなバスになつてはしりだし)

トマトさん 待ってえ!

ニワトリさん

(バスの中から コケコッコーとないて)

りりちゃんのおとうさん 待ってえ! (エコーで)

りりちゃん

おとうさん 待ってえ!

ウシさん

(バスの中から モーモーないて)

りりちゃんのおとうさん 待ってえ! (エコーで)

りりちゃん

わたしのおくに 待ってえ!

ヤギさん

(バスの中から メーメーないて)

りりちゃんのおくに 待ってえ! (エコーで)

(バスのクラクションの音)

(ガタゴトはしるバスの音)

(空が まっかな夕焼けにつつまれていく)

ニワトリさん

たいへん！ たいへん！ コケッコッコー

ウシさん

もうすぐ日が暮れるよ モーモーモー

ヤギさん

トマトばたけのご主人が 棒をもって みまわりにくる時間だよ メーメーメー

(暗転)

(バスの急ブレーキの音)

(ブツブーというクラクションの音)

(沈黙)

《第六場》

(ポロンという音楽 高く響く)

(ポトリという大きな音)

(コロコロとこころがる音)

ナレーターの声

とうとう大きくなってまっかなトマトになったりちゃんは 崖つぶちのトマトばたけまで ころころこころと
ころがりました そして ストンと トマトのカゴの中におさまりました

やれやれ

(この台詞のあいだ スポットの中を 大きくてまっかなトマトが 空をころがり カゴの中にすとお
さまる)

(夕焼けの音楽)

(西の空に まっかな夕陽が 沈んでいく)

りりちゃん

(もとのりりちゃんの姿で 大きくまっかなトマトのはいったカゴをかかえて立ち 夕陽にむかって)

お陽さま トマトさんをかえしてくれて ほんとうに ありがとう

(夕焼けの音楽 たかまる)

夕陽

— りりちゃん おとうさんも おくにも かえしてあげられなくて ごめんなさいね (エコーで)

(夕陽がしずむ)

(空いっぱい夕焼け)

りりちゃん

(沈む夕陽に手をふり)

お陽さま さようなら

夕陽の声

りりちゃん さようなら (エコーで)

(夕焼けの音楽 さらにたかまる)

(幕)

(解説)

「子どもの権利条約」の第七条は、「名前と国籍」についてです。すべての子どもは、名前と国籍をもつ権利があるのに、りりちゃんの国籍は、どこにいつてしまったのでしょうか。